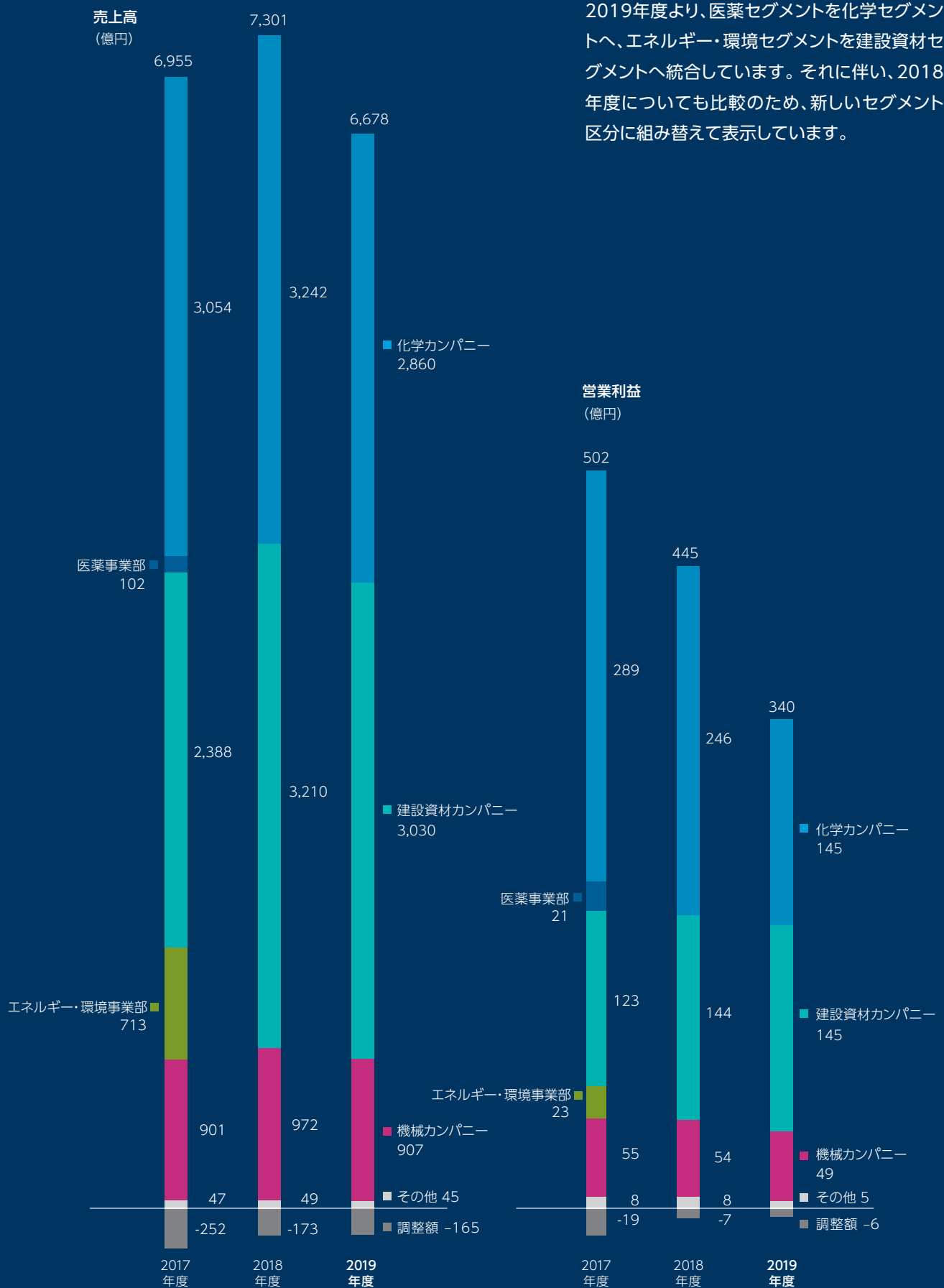


事業概況

2019年度より、医薬セグメントを化学セグメントへ、エネルギー・環境セグメントを建設資材セグメントへ統合しています。それに伴い、2018年度についても比較のため、新しいセグメント区分に組み替えて表示しています。



2019年度の連結売上高は、ナイロン・ラクタムおよび合成ゴム等の販売価格の下落、ならびに石炭等の販売数量減少等により減収となりました。連結営業利益は、石炭等の原料価格が下落したものの、ナイロン・ラクタムの需要鈍化の影響が大きく、減益となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は、前期にあった持分法適用関連会社の事業統合による利益がなくなったことから営業外収益が減少し、また連結子会社のゴルフ場事業譲渡により特別損失も増加したことから減少しました。

UBEグループの連結売上高および連結営業利益は左ページのグラフのとおりです。

● 化学カンパニー

(年度)	億円			減収減益 前年度比
	2017(注)	2018	2019	
売上高	3,054	3,242	2,860	-11.8%
営業利益	289	246	145	-40.9%

ナイロン・ファイン事業

- ラクタム事業は、中国市場などの成長鈍化もあり販売価格が下落し、販売数量も減少したことにより、減収となりました。
- ナイロン事業は、ラクタム価格下落の影響に加え、中国市場などの成長鈍化により需給が緩和した影響を受け、減収となりました。
- 工業薬品事業は、アンモニア工場の隔年の定期修理がなく、生産量・出荷量共に増加したものの、アンモニア価格の下落により、減収となりました。
- ファイン事業は、需要は概ね堅調に推移したものの、競争激化に伴う一部製品の販売数量減少により、減収となりました。

ナイロン・ファイン事業全体としては、ナイロン・ラクタムの価格下落の影響が大きく、減収減益となりました。

合成ゴム事業

- 合成ゴム事業は、販売価格が原料ブタジエン価格と伴に下落傾向で推移する中で、需要が低迷したことにより販売数量も減少したことから、減収減益となりました。

機能品事業

- 電池材料事業は、中国市場での競争激化および主要顧客における生産調整等の影響もあり販売数量が減少したことにより、減収となりました。
- ポリイミド事業は、ディスプレイ向けCOFフィルムの販売数量が堅調に推移し、また中国市場での有機ELパネル向けワニスの需要が拡大し販売数量が増加したことにより、増収となりました。

機能品事業全体としては、販売が堅調な製品がある中で、電池材料の販売数量減少の影響が大きく、減収減益となりました。

医薬事業

- 医薬事業は、自社医薬品・受託医薬品共に顧客である製薬会社の販売が好調に推移したことにより、増収増益となりました。

化学セグメント全体としては、ポリイミドなど堅調な製品があるものの、ナイロン・ラクタムの価格下落の影響が大きく、減収減益となりました。

● 建設資材カンパニー

(年度)	億円			減収増益 前年度比
	2017(注)	2018	2019	
売上高	2,388	3,210	3,030	-5.6%
営業利益	123	144	145	0.5%

- セメント・生コン事業は、国内需要が首都圏を中心に需要の端境期にあることに加え、自然災害や工事延期等の影響もあり低調に推移したため、減収となりました。
- カルシア・マグネシア事業は、鉄鋼・電力向けマグネシアなどの価格改定効果等があるものの、鉄鋼向けや耐火物の需要低迷による販売数量減少の影響が大きく、減収となりました。
- エネルギー事業は、石炭の販売数量の減少および販売価格の下落により、減収となりました。

建設資材セグメント全体としては、セメント・生コンおよびカルシア・マグネシアの販売数量減少の影響はあるものの、原料である石炭価格下落の効果により、減収増益となりました。

● 機械カンパニー

(年度)	億円			減収減益 前年度比
	2017	2018	2019	
売上高	901	972	907	-6.6%
営業利益	55	54	49	-8.7%

- 米中貿易摩擦に端を発した景気減速が世界中で設備投資にも波及したことにより厳しい受注環境が続く中、成形機事業は出荷減、産機事業は出荷微減となりました。

機械セグメント全体としては、製鋼事業の採算性は改善しサービス事業も堅調を維持しましたが、成形機事業における資材・外注加工費などの上昇の影響が大きく、減収減益となりました。

(注) 以前のセグメント区分による数値